

新春挨拶

新年のご挨拶

一般社団法人日本作業船協会 会長
武井俊文



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。特に、震災や台風ならびに豪雨により避難生活を余儀なくされておられる多くの皆様が穏やかで希望を見いだせる新年を迎えられたことを切に祈っております。

東日本大震災の被災地はもとより被災地の復旧・復興が加速されるとともに、台風や豪雨ならびに竜巻などの自然の脅威が増しているなか、防災・安全対策が積極的に進められることを期待しております。

東京オリンピック・パラリンピックが2020年に開催されます。先の第18回東京オリンピックが開催された1964年は、人口99百万人で増加途上にあり、新産業都市が生まれ、東海道新幹線開業や羽田空港拡張など我が国の骨格が形成される契機となった年であり、国と国民が一体となって先進諸国に列したいという高揚感に満ちており、踊り場にある景気は再び高度成長（後期）しました。6年後に開催される東京オリンピック・パラリンピックが飛躍へ向けた始点となることを期待してやみません。

我が国は鉱物資源が乏しいことから、加工貿易によって国を成り立たせることを国是としてきました。原発の稼働停止による発電燃料の輸入増と円安による輸入価格の上昇により、昨年は10兆円程度の貿易赤字が見込まれ、赤字構造から抜け出せない状況にあり、貿易収支改善の方策が期待されます。その一環として、港湾機能を一層強化し物流コストの削減を図る必要があります。また、洋上風力発電や海底資源採取などの積極的な海洋資源の利活用を図り、自給率の向上と海洋産業の振興と創出が望まれます。

また、我が国は少子高齢化の社会となり、生産年齢人口は2020年には8百万人の減少が見込まれます。年少人口は2020年には2百万人減少して14.5百万人と推

計されています。一方、OECDの学習到達度調査(PISA)において我が国高校生は世界の中で上位に位置するという喜ばしい結果が得られました。成長の資本は人です。人口減少は避けられませんが、それをも補って余りある人材能力を高めることにより成長を維持することは可能で、東京オリンピックを契機に資質向上に努めることが求められます。

富士山が世界文化遺産に、和食が世界無形文化遺産に登録されました。いずれも我が国固有の文化であります。我が国の文化やマナーに対する外国人の理解を深めることは、良好な国際関係の基礎となり、混沌とした国際社会の中で国民が誇りを持って生き抜いていく糧となります。

弊協会は平成23年7月に一般社団法人に移行し、公益目的事業の確実な遂行に注力してまいりました。また、その時々での社会的要請に応えるべく、作業船に関する調査研究や設計・建造監理を国内外で実施してまいりました。作業船に関わる技術者等が減少しつつある状況のなかで、弊協会は顧客の要請・要望に適切に応えられるよう研鑽を積んでまいります。

世界の浚渫船はリーマンショック前(2008年)には2,100隻が稼働していましたが、2013年時点では1,807隻に減少しております。オランダとベルギーの浚渫船は世界中で稼働しており、パナマ運河拡張工事(2015年完成予定)の浚渫事業にはベルギーの浚渫船が従事し、浚渫土量は56百万m³とされています。我が国の作業船については、最近2年間でグラブ浚渫船7隻、クレーン付台船8隻、起重機船3隻が建造されました。

本年も引き続き会員の皆様のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。会員の皆様にとりまして本年が良い年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。